

The page features a decorative design with three overlapping circles in shades of blue, arranged in a descending diagonal line from the top right towards the bottom right. Two thin blue lines intersect at the top left, forming a large triangular shape that frames the circles.

芳賀町子ども読書活動推進計画

第3次計画（平成28年度～平成31年度）

芳賀町教育委員会

平成28年3月

目次

はじめに	3
第1章 芳賀町こども読書活動推進計画の策定にあたって	4
1 計画の目的	4
2 計画の対象と期間	4
3 計画策定の経緯	4
第2章 子どもの読書活動を推進するための方策	5
1 家庭	5
現状と課題	5
取組の方向	7
主な施策と具本的な取組	8
2 保育園・幼稚園	9
現状と課題	9
取組の方向	9
主な施策と具本的な取組	10
3 学校	10
現状と課題	10
取組と方向	12
主な施策と具本的な取組	13
4 地域	14
現状と課題	14
取組の方向	14
主な施策と具体的な取組	15
第3章 計画推進のために	16
1 目標値	16
2 広報・啓発	16
主な施策と具体的な取組	16
参考資料	17
子どもの読書活動に関する調査について	17

はじめに

読書をすることは「考える力」「感じる力」「表現する力」を育てるとともに、豊かな情操を育み、すべての活動の基盤を築くものです。子どもの頃からの読書がその後の人生に大きく影響することは自明のこととして考えられてきたものの、様々なメディアの進化・普及により娯楽や情報収集が手軽になっていく一方で、読書がなおざりにされている現状もあります。そんな時代だからこそ、私たち大人が今まで以上に、子どもたちの読書環境を整えることを意識することが大切です。

町ではこれまで、本との豊かな出会いが持てるよう、全小中学校への専任の学校図書館司書の配置や読み聞かせボランティアの育成など様々な取り組みを行ってきており、平成 18 年の第 1 次計画当初からみて、子どもたちの読書環境は確実に向上してきているといえます。今後も、家庭・学校・地域が連携をとりながら、子どもの自主性から生まれる読書活動を支援していくことが必要です。

第 3 次計画では、変化に富み成長著しい学童期から青年前期が特に重要な意味をもつことから、学校活動を柱に、これまでの支援とあわせて新たな施策も盛り込みながら、子どもたちの「育ち」に貢献していきたいと考えています。

平成 28 年 3 月 15 日
芳賀町教育委員会

第1章 芳賀町こども読書活動推進計画の策定にあたって

1 計画の目的

インターネットや携帯電話などの電子メディアの普及により、幼児までもが電子端末を使って遊ぶ時代にきています。手軽にほしい情報を得ることができるようになったのと同時に、あふれる情報の真偽を見定めることは容易ではなく、その情報は時として、子どもたちの生活をも脅かす存在にもなり得ます。

一方、読書から得る情報は、本として形になるまでに複数の人のチェックを経て、確かなものになっていきます。子どもたちには、そうした情報により触れてもらい、自身で判断する力を磨いてもらえるよう、私たち大人が配慮していくことが必要です。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、子どもの読書が「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」とうたっています。芳賀町の子にも将来をより豊かに幸せに生きてもらいたいと思う気持ちはみな同じです。

この計画は、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次 平成 25 年 5 月）」及び「栃木県子どもの読書活動推進計画（第三次 平成 26 年 3 月）」を基本として、これまでの「芳賀町子ども読書推進計画」を踏まえ策定したものです。子どもたちが楽しんで読書をしようとする心を育てるために、家庭、学校、地域などそれぞれが連携・協力しあって、社会全体で子どもの読書活動を支援できるような環境づくりを目指します。

2 計画の対象と期間

計画の対象は、概ね 18 歳までの子どもとしますが、取組の主体は、大人を含む全ての町民となります。

計画の期間は、平成 28 年度（2016 年 4 月）から 31 年度（2020 年 3 月）までの 4 年間とします。

3 計画策定の経緯

町では、早くから町内全校に専任の学校司書を配置し、子どもたちの読書環境の向上に力を入れてきました。また、読み聞かせボランティアの育成や、学童保育や地域のボランティア活動において、「本」と結びつけた事業展開も行い、読書との素敵な出会いの場を提供してきました。

本計画は、これまでの芳賀町の子どもと読書にかかわる取組の現状と課題を整理することから、計画づくりを進めました。

第2章 子どもの読書活動を推進するための方策

1 家庭

子どもの読書習慣は、日常の生活を通じて形成されるものであり、読書が生活の中に位置づけられ、継続して行われるよう、大人が配慮していくことが必要です。

家庭においては、親子の触れ合いの中で、乳幼児期から本への親しみを持つよう、読み聞かせや子どもと一緒に本を読むなど、工夫して子どもが本と出会うきっかけを作ることが大切です。

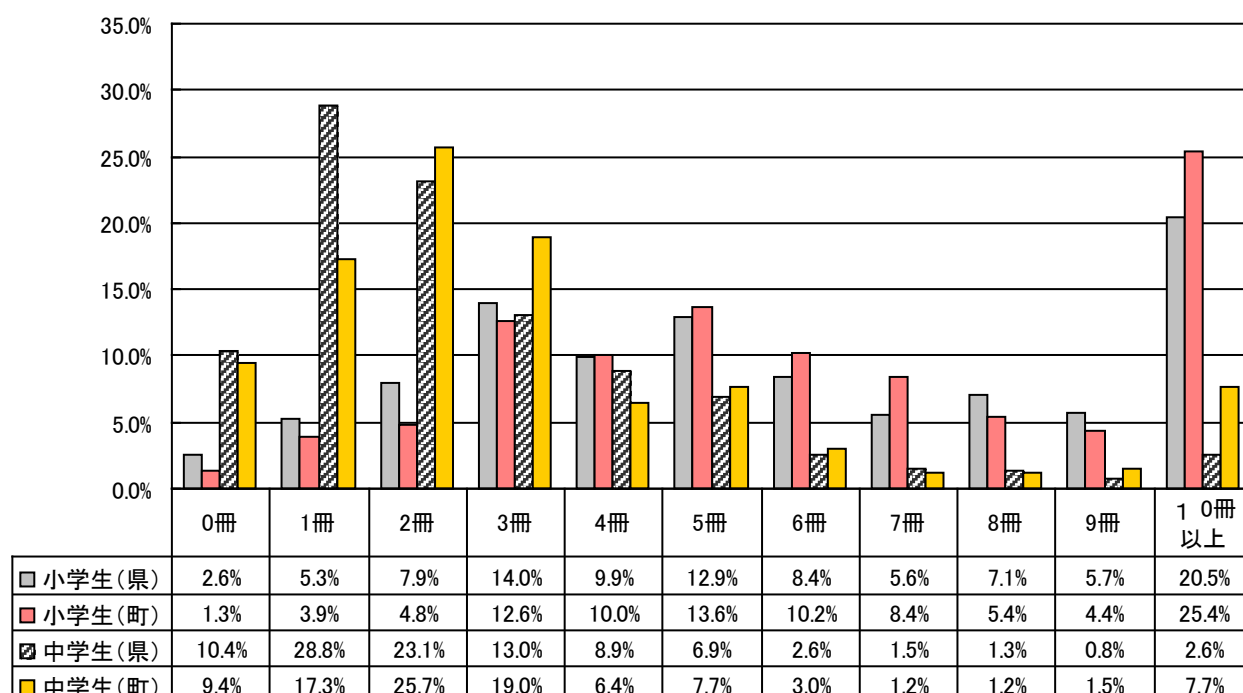
また、読書を通じて感じたことや考えたことを話し合うことにより、読書に対する興味や関心を子どもから引き出すよう働きかけることが望まれます。

現状と課題

子どもを取り巻く家庭環境においては、テレビや携帯電話、インターネットなど、本に取って代わる情報メディアの浸透で、子どもの興味関心が多様化しています。読書離れが嘆かれる現在ですが、芳賀町においては、10冊以上読んでいる児童の割合が高いことがわかります（図1参照）。

その一方で、中学生においては、1～3冊に集中しており、不読の割合も小学生に比べ高くなってしまっています。

図1 1カ月の読書量(割合)平成27年調査



では、読書環境はどうかというと、「家にはマンガや雑誌以外、何度も読む自分の本がある」「家で落ち着いて本を読む場所がないと思っている」「本がほしいといえば、家の人にたいてい買ってもらえる」（図2参照）、「自分が小さかったとき、よく本を読んでもらっていた」「どちらかといえば、家の方は本が好きな方である」「自分が小さかったとき、読んでもらって今でも覚えている好きな本がある」（図3参照）の回答から、家庭における読書環境はだいぶ整えられてきていると読み取れます。

そんな中で、「本を読むよりテレビやゲームをするのが好きだ」「授業で、自由に本を読める読書の時間があれば、もっと本を読むと思う」に反映されるように、プライベートの時間においては、興味関心が読書以外に向けられている傾向にあるのも事実です。

図2 小中学生の読書における身の回りの環境

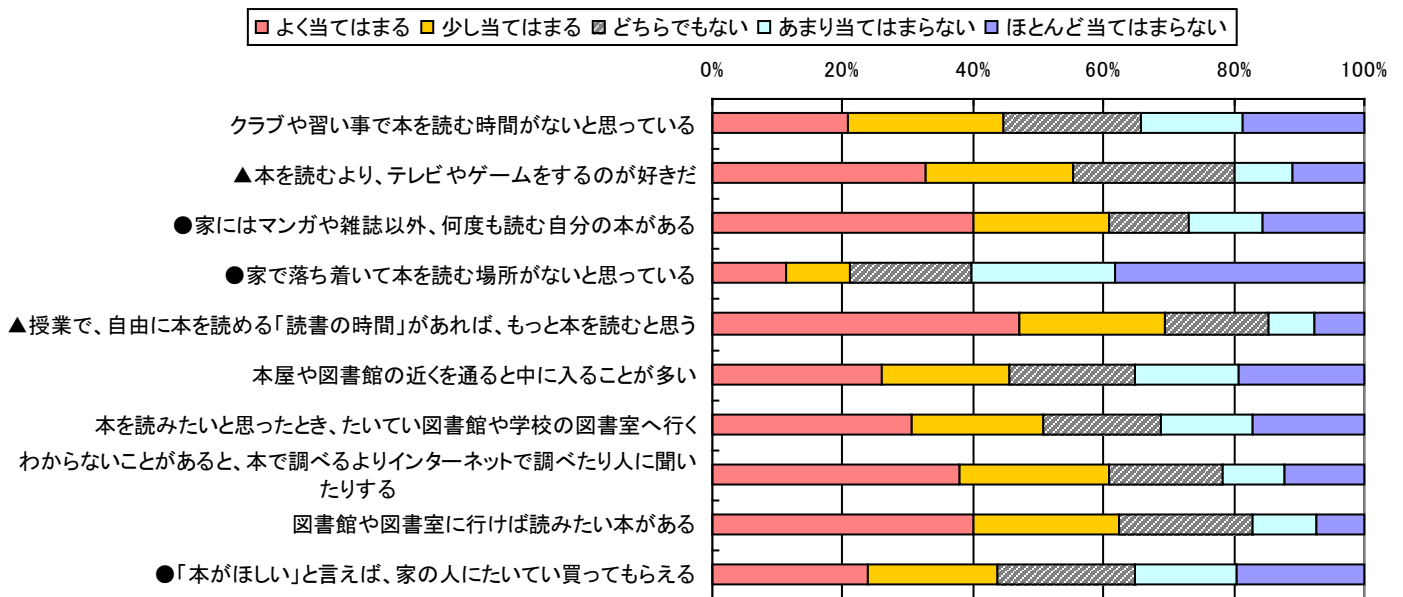
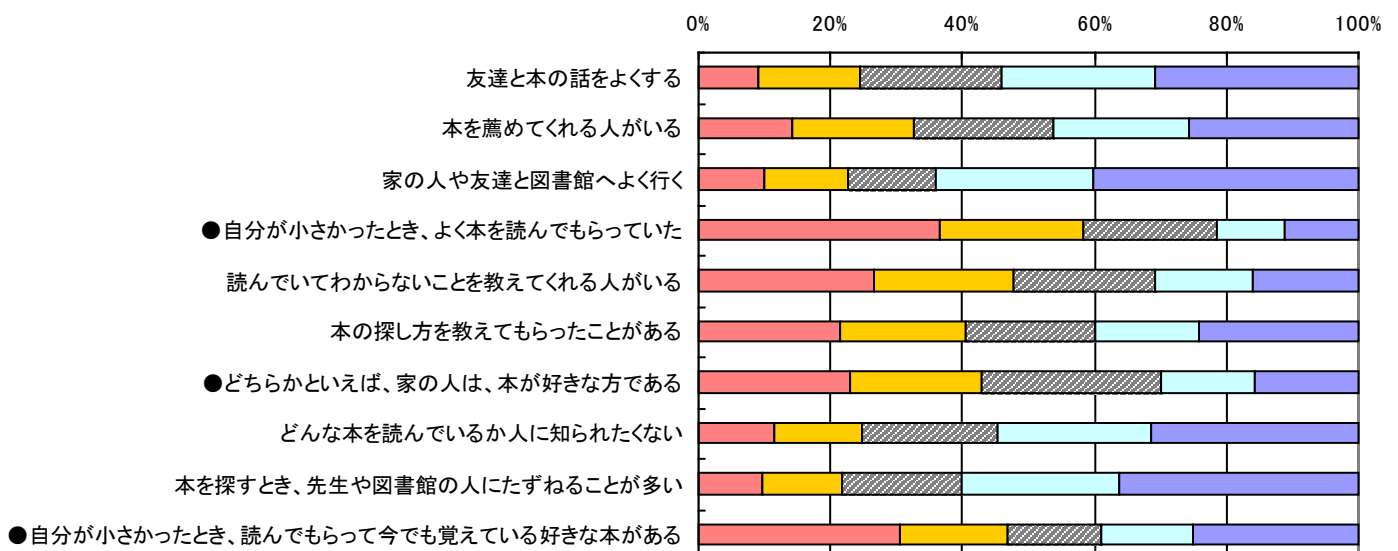
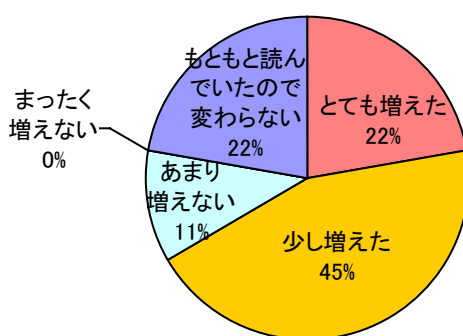


図3 小中学生の読書における人との関係



保護者の読み聞かせの実施状況においては、子どものころの読み聞かせがその後の読書へのきっかけづくりに大切であると認識されている方は多く、総合情報館にも多くの方が絵本を借りにきたり、館内でお子さんに読み聞かせをしている姿を目にします。町でも読み聞かせのきっかけづくりとして、ブックスタート事業を行っています。そのアンケートによると（図4参照）、ブックスタート事業をきっかけに読み聞かせの機会が増えたとする回答が7割近くに及ぶことから、今後も引き続き絵本の配布とあわせ、発達段階に適した絵本の紹介やどんなふうに読み聞かせをするのが効果的かなど、家庭での読み聞かせの定着に向け、支援体制を強めていくことが課題です。

図4 ブックスタートをきっかけに読み聞かせの機会が増えましたか？(H27年度調査)



取組の方向

【家庭】

○読み聞かせの実施

子どもたちが自分の力で本を読めるようになるには、周りの大人が子どもたちと楽しんで本を読んであげることが重要です。幼少期の読み聞かせはもちろんのこと、自分で本を読み、言葉の意味を理解できる年齢になった子どもでも、耳から入る言葉からより深く意味を理解して、イメージにつなげて楽しむ力を養う意味で、読み聞かせは有効です。子どもたちにとってはあらゆることが冒険です。その冒険から発見できた喜びを、本を通じて感じることができるような支援が必要です。

○読書のできる環境づくり

読書は習慣です。習慣づけは大人の役目です。まずは、家庭において、「本があるのが当たりまえ」という状況をつくってみましょう。総合情報館では年齢に関係なく、1人1枚の利用者カードを作ることができます。例えば、家族3人がカードを作れば、家の本棚には30冊の本をそろえることができます。いつでも本がある環境をつくることで、読書がより身近なものへとなっていきます。あわせて、テレビやゲームはルールや時間を決めて、しっかり守れるように、保護者が働きかけることも大切です。週に一回、テレビやゲーム、インターネットを封印する日をつくってみましょう（ノーメディアデー）。何もす

ることがなくなってしまった子が、目の前に沢山の本があったら、ちょっと手を伸ばしてみようという気になるのではないのでしょうか。

○「家読」の実施

「家読」とは、家族で本を読んで感想を話し合ったり、好きな本をすすめあったり、読書習慣を共有することでコミュニケーションを図り、家族の絆を強める取組です。「ノーメディアデー」の実施と合わせて、家族みんなで読書を楽しみましょう。

【町】

○ブックスタート事業

絵本を読んでもらうことは読書への第1歩。絵本との出会いのきっかけづくりで保護者に読み聞かせの大切さを伝えていきます。

○学習機会の提供

妊娠期の「パパママ学級」や乳幼児健診・ベビーマッサージなどにおいて、読み聞かせの意義や読書の重要性について理解が得られるよう働きかけていきます。特に、保育士による読み聞かせを取り入れ、実践方法と子どもへの接し方、優良図書の紹介を行っていきます。

○家庭への働きかけ

読書の大切さを理解していても、日々の生活における優先順位は低く、読書が意識されにくいことから、学校や保育園・幼稚園と連携し、定期的に家族で読書を考えるきっかけづくりや「家読」「ノーメディアデー」の推進を図り、意識付けを行います。

○図書館の充実

総合情報館や学校図書館、保育園などの絵本・児童書の充実を図るとともに、その選書においても言葉を学ぶ場でもあることから、内容に心を配るなどの配慮を行います。また、乳幼児連れでも来館しやすい雰囲気づくりを行います。

主な施策と具本的な取組

施策名	具本的な取組
読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none">・ブックスタート事業・「家読」「ノーメディアデー」推進・学習機会の提供・家庭に向けての啓発事業の実施と情報提供
読書環境の整備	<ul style="list-style-type: none">・年齢別優良図書の紹介・あかちゃんタイムの実施

2 保育園・幼稚園

町の保育園・幼稚園の就園状況は、3歳児以上は82%（平成27年度）と高い割合にあります。

就学前に絵本の楽しさを体験することは、その後の読書活動をすすめるために大切で、この時期の子どもたちが長い時間を過ごす保育園・幼稚園が重要な役割を担っています。

現状と課題

子どもにとって絵本を身近なものとするために、保育士による絵本の読み聞かせはもちろんのこと、パネルシアター、エプロンシアター、紙芝居など、日常生活の中に、子どもたちが関心を持つようなメニューを取り入れています。

また、図書コーナーを設置し、家庭への絵本の貸出を行ったり、園児たちが自由に手に取ることができるようになっていたり、身近に、本がある環境をつくることを意識しています。

しかし、折角のコーナーも園児数に対しての蔵書数が少なかったり、設置場所の環境がよくなかったりと、改善点も見受けられます。蔵書を増やすために、園でのチャリティーバザーの益金をあて、新刊を購入している園もあります。そのほかにも、総合情報館から団体貸出を行うことで、1冊でも多く本を手にとってもらえるよう努めています。

取組の方向

【保育園・幼稚園】

○読み聞かせ等の活動

日常的に保育士などによる読み聞かせやエプロンシアターなどの活動を行っています。内容も園児の発達段階に合わせたものを選ぶことで、ことばの習得も促します。

○保護者への働きかけ

保護者の本の相談にのったり、発達段階にあわせた本の紹介など、保育園・幼稚園の行事や園だよりなどを通じて啓発し、幼少期の読書の重要性を伝えていきます。

○環境整備

図書コーナーになかなか新刊が増やせない現状もあることから、総合情報館からの団体貸出を積極的に利用し、充実を図るとともに、コーナーの設置場所も利用しやすい環境を整えます。

○職員研修の実施

読み聞かせの技術や読書の重要性を学ぶ研修に参加し、職員の質の向上を図り、読書活動の充実につなげていきます。

【町】

○総合情報館の利用

交通弱者である子どもたちは、保護者の協力なしでは図書館などに足を運ぶことはできません。そこで、町有バスを利用し、保育時間の中で総合情報館を利用してもらい、たくさんの本にふれあうことで、子どもの興味関心を引き出します。家庭でも話題を共有することで、個人でも情報館を利用するきっかけづくりを行います。

○情報提供

子どもたちの発達に見合った優良図書・新刊などの情報や、研修開催情報の提供を行います。

○団体貸出

蔵書の充実を図るため、各園へ団体貸出を行います。

主な施策と具体的な取組

施策名	具体的な取組
読書活動の推進	・発達段階に応じた読み聞かせ
読書環境の整備	・町有バス送迎による総合情報館団体利用 ・団体貸出 ・職員研修の実施 ・各園での図書コーナーの充実

3 学校

子どもたちは、学童期から青年前期において、変化に富み、成長著しく、子どもが読書習慣を身につける上で重要な時期にあります。読書活動を推進する上で、計画的に読書指導を行い、多様な取り組みを一層、普及・定着させていくことが求められています。

現状と課題

学校図書館法において、平成15年度から12学級以上の学校には、司書教諭の配置が義務づけられたものの、図書館業務以外にも様々な業務を抱える中では、十分な機能を発揮できず、読書活動推進も思うように進められてきませんでした。

そこで、芳賀町では、県内の中でも先進的な取り組みとして平成19年度に全校に学校司書を配置し、図書の整備や貸出等の実務のほか、資料の選択、読書案内、調べもの相談、授業支援など、司書教諭と連携し行ってきました。

その結果、読書活動への取組は浸透してきており、子どもたちの読書を楽しむ力は確実に育ってきていると感じます。「図5 本を選ぶとき」のアンケート結果によれば、小学生においてもページが少ない本や字の大きい本よりも、内容重視のものを自分で決めて選ぶ傾向が高く、「図6 本を読むとき」においては、途中で飽きてしまって本を読むのをやめてしまう割合は低く、本を読むと感動できたり、違う世界にいったような気分を味わったり、読書が大切なことであるという認識が高いことがわかります。

図5 本を選ぶとき

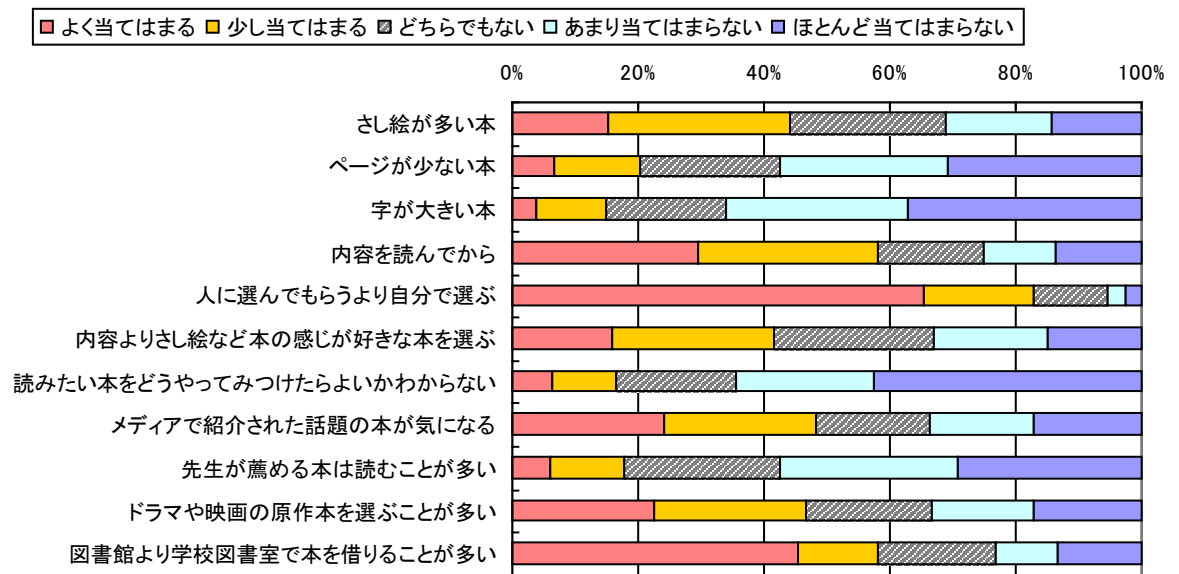
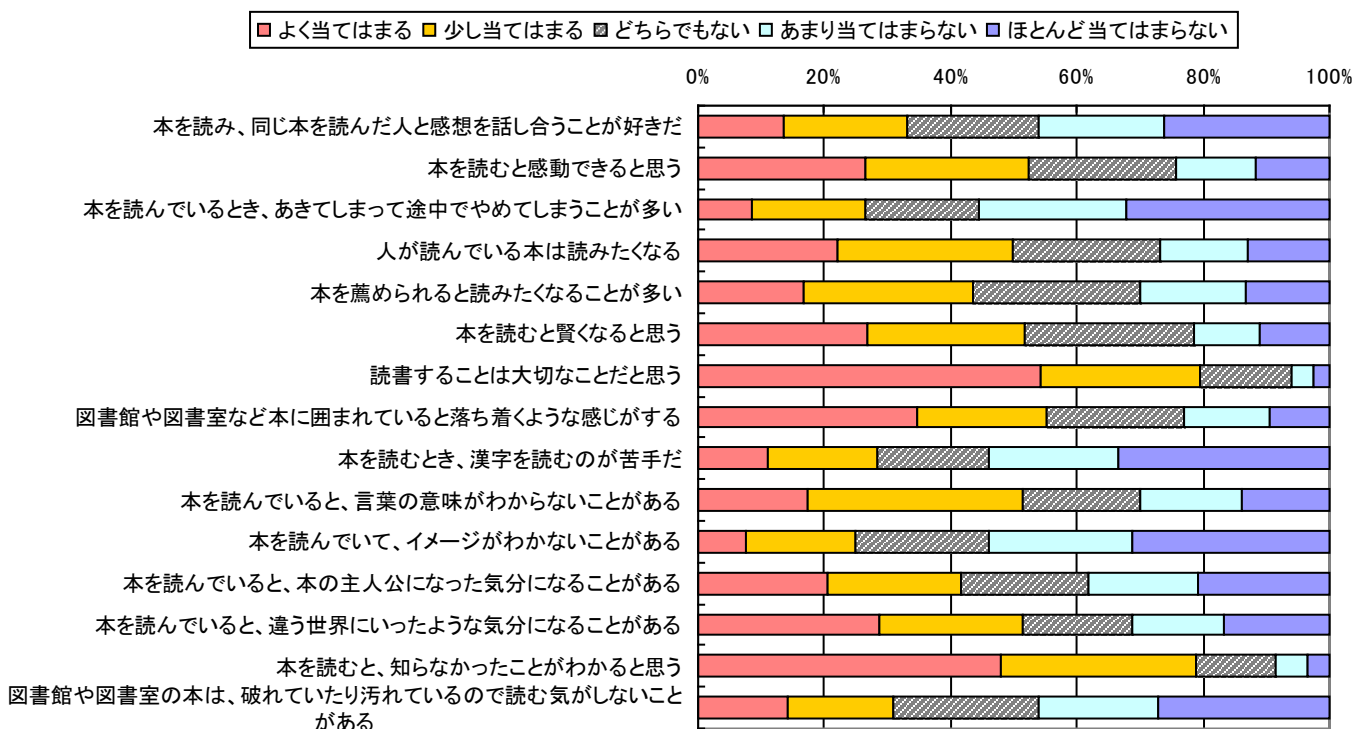


図6 本を読むとき



一方で、テレビや電子メディアへの関心も高く、時間をかけた読書より、手軽で身近なパソコンや携帯電話が情報収集のツールになっていることも否めません。「読書は楽しいもの」「大切なもの」と客観的に感じるのではなく、実感できる機会を増やしていかなければなりません。子どもたちの未来が豊かなものになるよう、自ら本を手にとれる子に育つような支援が重要であり、大きな課題です。

ハード面での支援においては、図書購入費を各学校に割り当て、学校の実状、児童生徒の実態に応じた選書を行ってきたことで、「文部省学校図書館図書標準」をも大きく上回る蔵書整備が進められてきました。しかし、教科書改訂などにより、副読本においては、収集が追いついていないのが現状です。

取組と方向

【学校】

○授業における学校図書館の活用拡大

図書や資料を使つての調べ学習は、必要な情報を見つける能力、見つけた情報を整理分類し、自分の考えを明確化していくために利用したりする能力などの育成にもつながります。これらの学習活動を、意欲的・計画的に展開することで、読書活動への関心をより高めるようにします。

○教員サポート機能の充実

蔵書整備において、教員用の指導資料や教材研究のための文献資料の整備をすすめ、指導の準備に要する時間や子どもと向き合う時間の確保につながるよう、学校図書館が教員サポート機能を充実させます。

○図書館の環境整備

蔵書においては、文科省の標準蔵書冊数を維持し、傷みが激しい本の買い替えや授業副読本の収集を進めるとともに、読みたい本が見つけやすい書架の工夫など、児童・生徒が図書館でストレスなく過ごせるような環境整備を進めます。

○読書活動の推進

朝の読書、読み聞かせ、ブックトークなどの取り組みの継続や、読書集会や読書週間において、読書の楽しさやその重要性の意識付けを行います。

○読書能力に応じた支援

読書の幅を広げるよう個々の能力に応じた図書の紹介や、不読傾向の児童・生徒に対する働きかけにも力を入れます。

特に、中学生になると不読の傾向は高まりますが、県の不読率 22.8%（平成 24 年）に対し、9.38%（平成 27 年）と 1 割を切っていることから、これまでの取り組みによる効果のあらわれ



▲「朝の読書」の様子

と考えられます。今後もますます電子メディアが普及・進化する中で、不読率が高まらないよう、引き続き読書活動推進に力を入れていきます。特に、「朝の読書」の時間は、多忙になってくる中学生において貴重な読書時間であることから、有意義なものにできるよう、取り組み方の助言や、限られた時間でも楽しめる本の紹介などをしていきます。

○図書館利用教育

公立図書館は、全国で3,200館以上設置され、単なる自習や受験勉強の場ではなく、個人が一生にわたって自立可能な生活を送るために必要な様々な資料、情報が得られる場となっています。読書意欲が旺盛な青少年期に、公立図書館の存在意義、適切な利用の仕方などについて理解を深め、公立図書館を活用し続けることはその後の人生を豊かに過ごすことにも繋がります。総合情報館と学校が連携し、図書館利用教育を図ります。

【町】

○司書教諭・学校司書等の研修実施

子どもの読書活動推進に関する研修会や意見交換会を充実し、継続的なスキルアップを図ります。

○蔵書の補充

学校図書館で揃えられないものは、積極的に総合情報館から団体貸出を行い、図書の充実を図ります。

○地域連携

読み聞かせなど読書活動支援ボランティアに対するニーズの把握やボランティア養成への支援を進めます。また、学校での活動の状況を地域に情報発信することで、新たなボランティアの取り込みや活動の場を広げていきます。

主な施策と具本的な取組

施策名	具体的な取組
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティア等の養成講座、スキルアップ研修、情報交換会などの開催 ・共催事業の実施
学校図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭、学校司書等のスキルアップ研修 ・総合情報館との連携による団体貸出や教員サポートのための文献資料等の整備 ・個々の能力に応じた支援

4 地域

地域において子どもの読書活動を進める拠点のひとつが図書館です。また、生涯学習センターや子育てサロンなどでも、その活動は行われています。子どもたちは、読み聞かせボランティアや子育てを支援する団体など、地域において様々な大人と接しながら、自らの読書習慣を形成していきます。

現状と課題

平成 20 年に総合情報館が開館し、今や地域における読書活動の中核的な役割を担っています。平成 27 年度の蔵書数は約 10 万冊で、うち児童書は 3 万冊を収集し、児童サービスを図書館運営の大きな柱に位置づけ、子どもたちの本との出会いを支援してきました。ブックスタート、ボランティアによる読み聞かせ会、学校をはじめ幼稚園・保育園への団体貸出、読書離れが進む中高生に手にとってもらえるような資料を選書したヤングアダルトコーナーの設置と、発達段階に合わせた支援も意識しています。他にも生涯学習センターや子育て支援施設など、子どもたちの身近なところに本と親しむ環境を整えることが理想ですが、思うように図書整備が進められてきませんでした。

また、地域の人たちの連携や支援を考えたとき、町には読み聞かせや民話語りなどの活動を行うボランティア団体が存在するものの、活動の場が限られていたり、行う側と受け入れる側とのニーズをうまく結びつけられなかったため、折角の皆さんの力がうまく生かされてこられませんでした。また、勉強会や情報交換の場もあまり設けられなかったことで、新たなボランティアの育成が思うように進まなかったことも反省点です。

今後は、図書館においては、子どもの読書活動の中心的施設であることから、引き続き図書整備に努め、あわせて司書等のスキルアップを図り、専門的な知識をより発揮して様々な提案・活動支援を行えるよう進めていくことに努めます。



▲「お話クッキング」教室でのブックトーク

取組の方向

○職員研修

図書館は子どもの読書活動推進の中核的な役割を担うことから、担当職員の専門的研修会への参加や他団体との情報交換などを行い、資質の向上に努めます。

○設備・蔵書の充実

発達段階に合わせた本の選書や乳幼児とその保護者が利用しやすい環境づくりに努めます。生涯学習施設や学童保育などの子育て関連施設の図書整備においては、団体貸出を積極的に行い、各所での蔵書の不足分を補います。

○読書啓発事業の充実

子どもの読書習慣は、まず大人への啓発も必要なことから、親子で参加できるイベントや大人を対象とした講座などを増やし、関心を持ってもらえる場をできるだけ多く提供していきます。

○中高生への読書支援

中学生以降の不読率が高まる傾向を踏まえ、小学校までに築き上げた読書習慣を中学校へ行っても継続していけるよう、学校と連携し、読書の機会を増やしていきます。また、中高生向けの優良図書を紹介するだけでなく、好きな本との出会いを助けたり、好きな作家が見つけれられたりするよう、読書を楽しめるような支援をしていきます。

○ボランティアとの連携・支援

町内には、本の読み聞かせなどのボランティア活動をしている個人や団体があります。これらの団体などが主体性を持ちつつ、相互に連携・協力を図ることが重要です。ボランティア活動を広めていくには、参加する人の充足感や志気を高めるような支援も必要です。活動の場を増やしたり、ボランティア団体同士で交流会や情報交換・勉強会を開催したりするなど、ボランティアへの理解を深めていきます。

○地域事業・各種団体との連携

地域において開催される事業にも、図書館職員が積極的に向き、読み聞かせや保護者への本の紹介など、子どもの読書について考える機会を増やしていきます。また、様々な団体と連携を図り、子どもの読書活動推進に向けた取り組みを共に進めます。

○図書館相互の連携・協力

県立図書館はじめ、他市町図書館との連携により、図書資料の相互利用の拡充や情報交換などを行うことで、利用者の読書推進につなげます。

主な施策と具体的な取組

施策名	具体的な取組
地域連携	・ 各種団体、ボランティアとの連携による読書推進活動の充実 ・ 情報交換、啓発活動の充実
読書環境整備	・ 司書、各種団体等のスキルアップ研修 ・ 発達段階に応じた図書コーナーの充実

第3章 計画推進のために

1 目標値

本計画において、子どもの読書活動の推進状況を概観できる指標を使って、目標年度における数値目標を設定します。

項目	県	町	
	H24年度 実績値	H27年度 実績値	H31年度 目標値
1カ月に本を読まない 児童・生徒の割合 (不読率)	小学生 9.8% 中学生 22.8%	小学生 1.2% 中学生 9.38%	小学生 5%以下 中学生 10%以下
総合情報館全貸出に おける児童書の貸出率		33.65%	39.45%

2 広報・啓発

子どもが成長する上で、読書がもたらす意義や楽しさについて、子どもだけでなく、その生活に関わる全ての人への啓発を行いながら、関係機関が連携を深め、社会全体で子どもの読書活動を推進する体制を整えていきます。



主な施策と具体的な取組

施策名	具体的な取組
子どもの読書活動推進についての広報・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌やホームページなどによる広報・啓発 ・ 地域や学校等関係機関の実施事業等での広報・啓発活動 ・ 子どもの集う場所などへのポスター掲示・リーフレット配布 ・ 「家読」「ノーメディアデー」の導入による意識付け

参考資料

子どもの読書活動に関する調査について

本年度、子どもの読書活動推進計画を策定するにあたり、子どもたちを取り巻く読書環境はどうなっているのか、読書活動はどう取り組まれているのか等を把握することで、読書推進を図る上での阻害要因を洗い出し、計画に反映すべく、町内の小中学生を対象に「子どもの読書活動に関する調査」を実施しました。ご協力いただきました先生方、児童生徒のみなさまに厚くお礼申し上げます。

1 調査の目的

「芳賀町子ども読書活動推進計画」策定に際し、子どもの読書の現状を把握し、計画に反映するために実施。

2 調査期間

平成 27 年 9 月～平成 27 年 10 月

3 調査対象

町内全小学校の 3 年生～6 年生の児童と芳賀中学校全生徒 1,080 人

4 回収率

1,029 人 95.27%

5 アンケート作成・集計

オープンソースソフトウェアである Shared Questionnaire System(SQS)アプリケーション (http://dev.sqs2.net/projects/sqs/wiki/Overview_ja) を利用し、「光学式マーク読み取り」により、回答を抽出・結果の統計処理を行いました。

6 アンケート集計

Q1. あなたの性別は？

男	519 人
女	509 人

Q2. あなたの学年は？

小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
140 人	152 人	148 人	160 人	147 人	131 人	150 人

Q3. 1か月の間に雑誌・マンガ以外の本を何冊読みましたか？

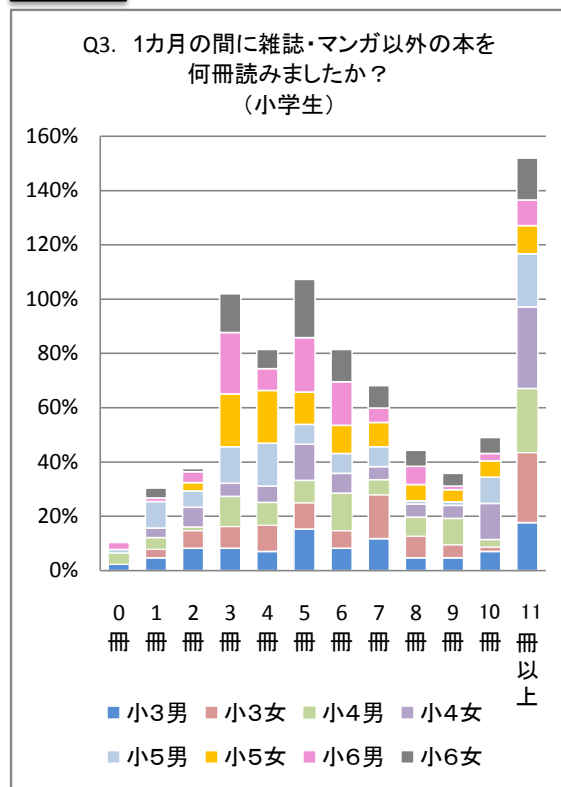
【小学生】

	小3男	小3女	小4男	小4女	小5男	小5女	小6男	小6女
0冊	2.4%	0.0%	4.2%	0.0%	1.2%	0.0%	2.7%	0.0%
1冊	4.7%	3.2%	4.2%	3.6%	9.8%	0.0%	1.3%	3.6%
2冊	8.2%	6.5%	1.4%	7.2%	6.1%	3.0%	4.0%	1.2%
3冊	8.2%	8.1%	11.1%	4.8%	13.4%	19.4%	22.7%	14.3%
4冊	7.1%	9.7%	8.3%	6.0%	15.9%	19.4%	8.0%	7.1%
5冊	15.3%	9.7%	8.3%	13.3%	7.3%	11.9%	20.0%	21.4%
6冊	8.2%	6.5%	13.9%	7.2%	7.3%	10.4%	16.0%	11.9%
7冊	11.8%	16.1%	5.6%	4.8%	7.3%	9.0%	5.3%	8.3%
8冊	4.7%	8.1%	6.9%	4.8%	1.2%	6.0%	6.7%	6.0%
9冊	4.7%	4.8%	9.7%	4.8%	1.2%	4.5%	1.3%	4.8%
10冊	7.1%	1.6%	2.8%	13.3%	9.8%	6.0%	2.7%	6.0%
11冊以上	17.6%	25.8%	23.6%	30.1%	19.5%	10.4%	9.3%	15.5%

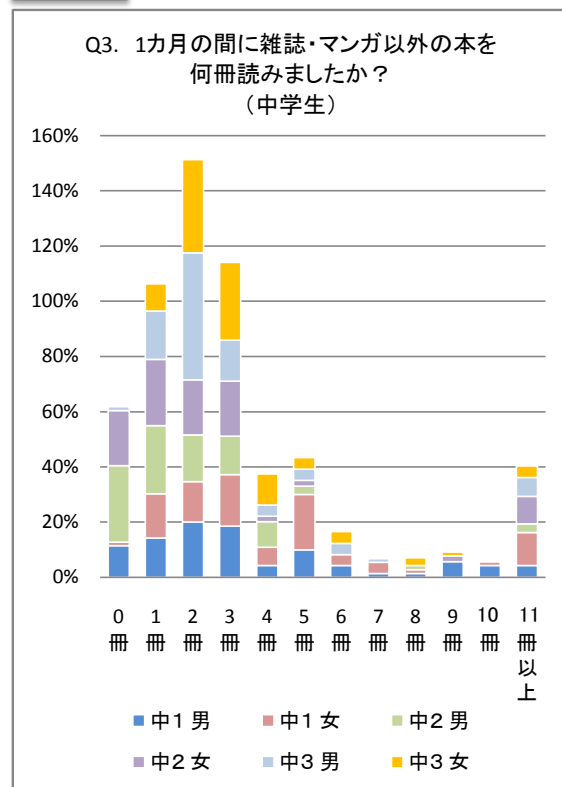
【中学生】

	中1男	中1女	中2男	中2女	中3男	中3女
0冊	11.4%	1.3%	27.7%	20.0%	1.4%	0.0%
1冊	14.3%	16.0%	24.6%	24.0%	17.6%	9.9%
2冊	20.0%	14.7%	16.9%	20.0%	45.9%	33.8%
3冊	18.6%	18.7%	13.8%	20.0%	14.9%	28.2%
4冊	4.3%	6.7%	9.2%	2.0%	4.1%	11.3%
5冊	10.0%	20.0%	3.1%	2.0%	4.1%	4.2%
6冊	4.3%	4.0%	0.0%	0.0%	4.1%	4.2%
7冊	1.4%	4.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%
8冊	1.4%	1.3%	1.5%	0.0%	0.0%	2.8%
9冊	5.7%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	1.4%
10冊	4.3%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
11冊以上	4.3%	12.0%	3.1%	10.0%	6.8%	4.2%

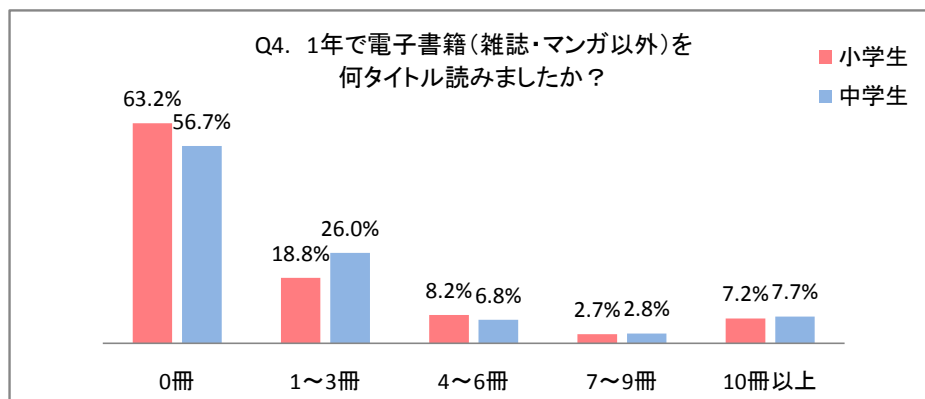
小学生



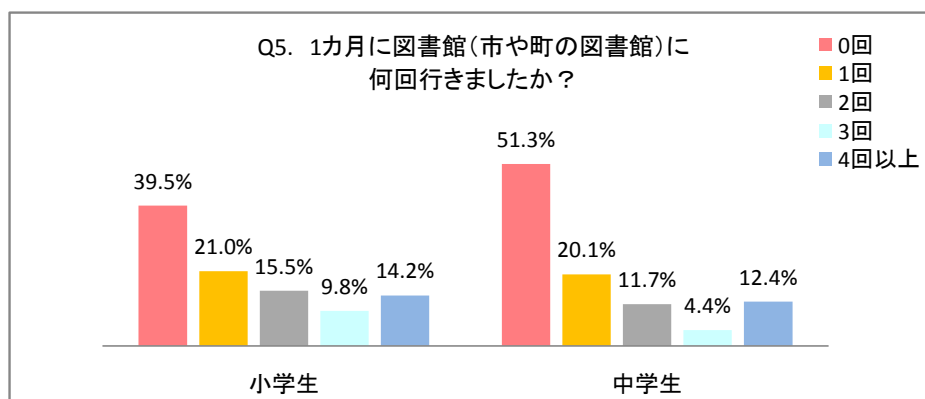
中学生



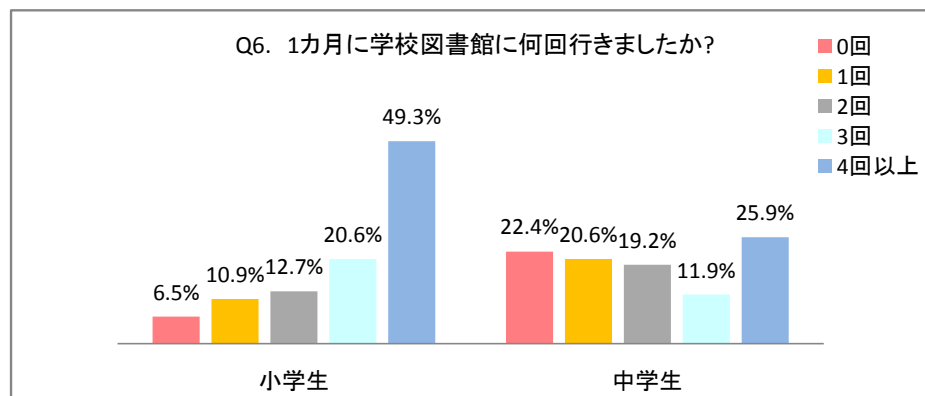
Q4. 1年で電子書籍(雑誌・マンガ以外)を何タイトル読みましたか？



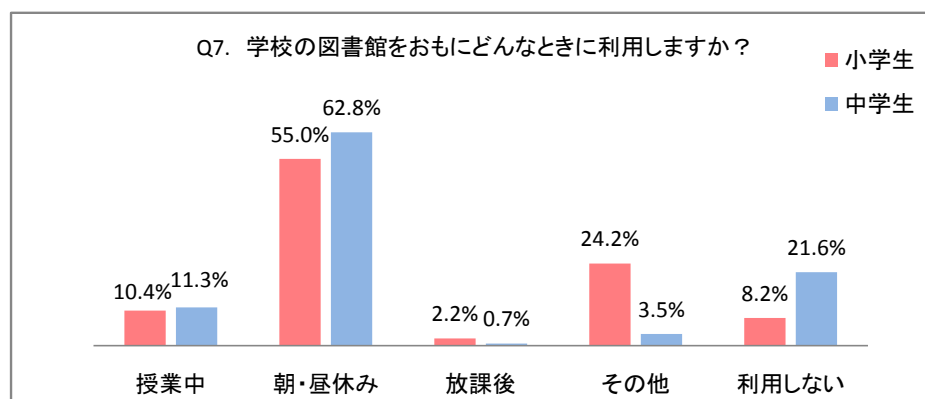
Q5. 1ヶ月に図書館(市や町の図書館)に何回行きましたか？



Q6. 1ヶ月に学校の図書館に何回行きましたか？

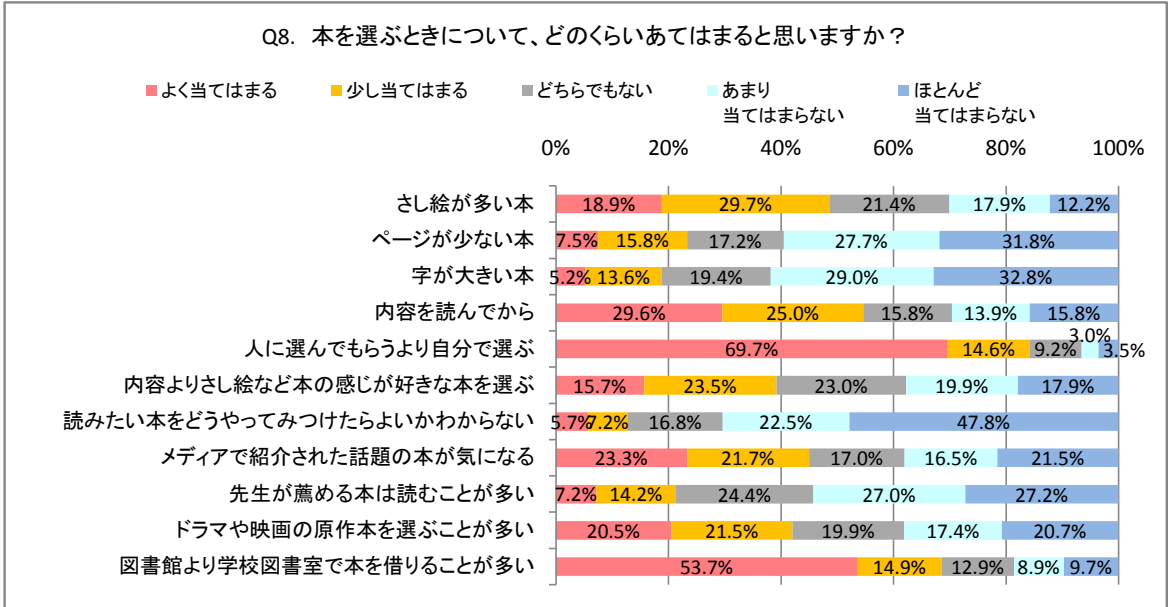


Q7. 学校の図書館をおもにどんなときに利用しますか？

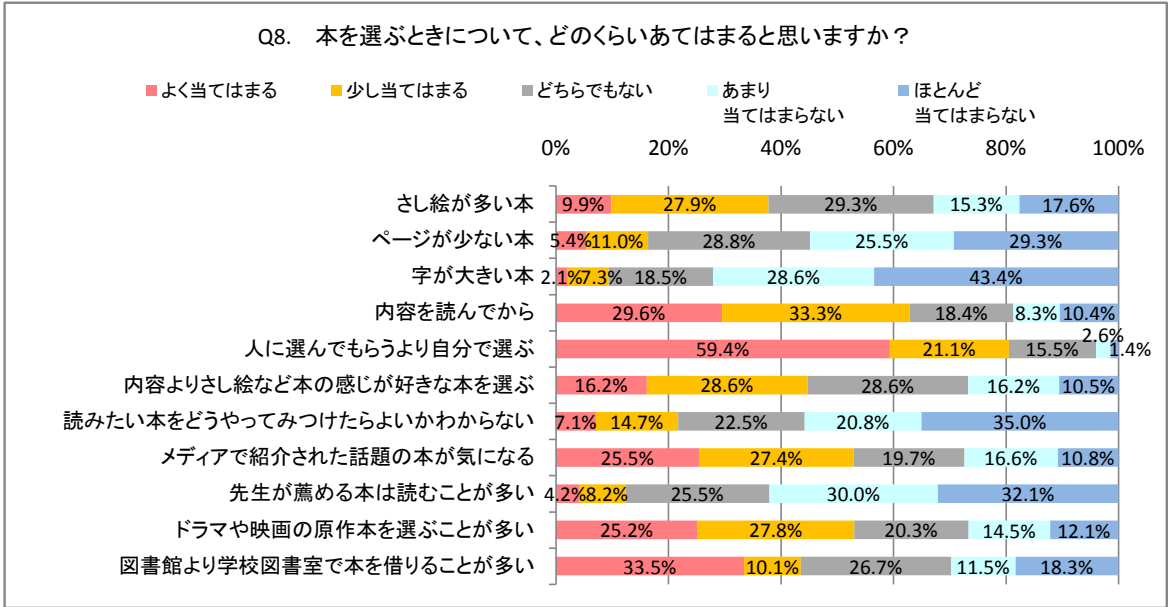


Q8. 本を選ぶときについて、どれくらいあてはまると思いますか？

小学生

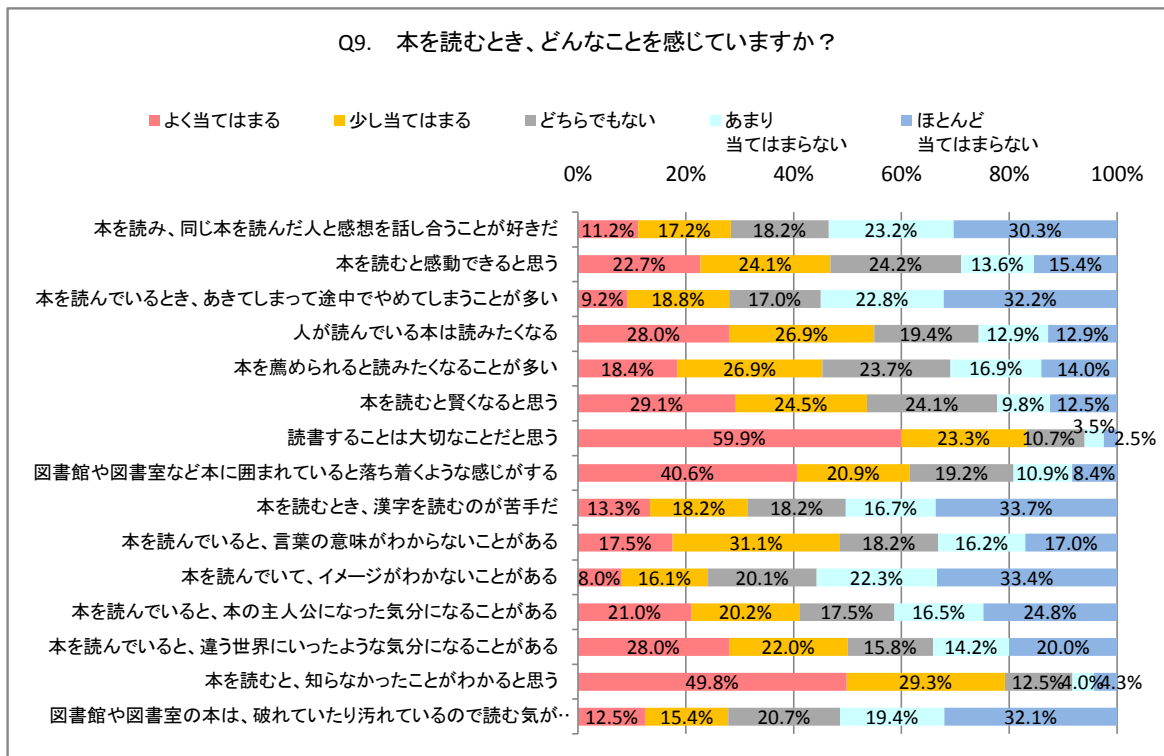


中学生

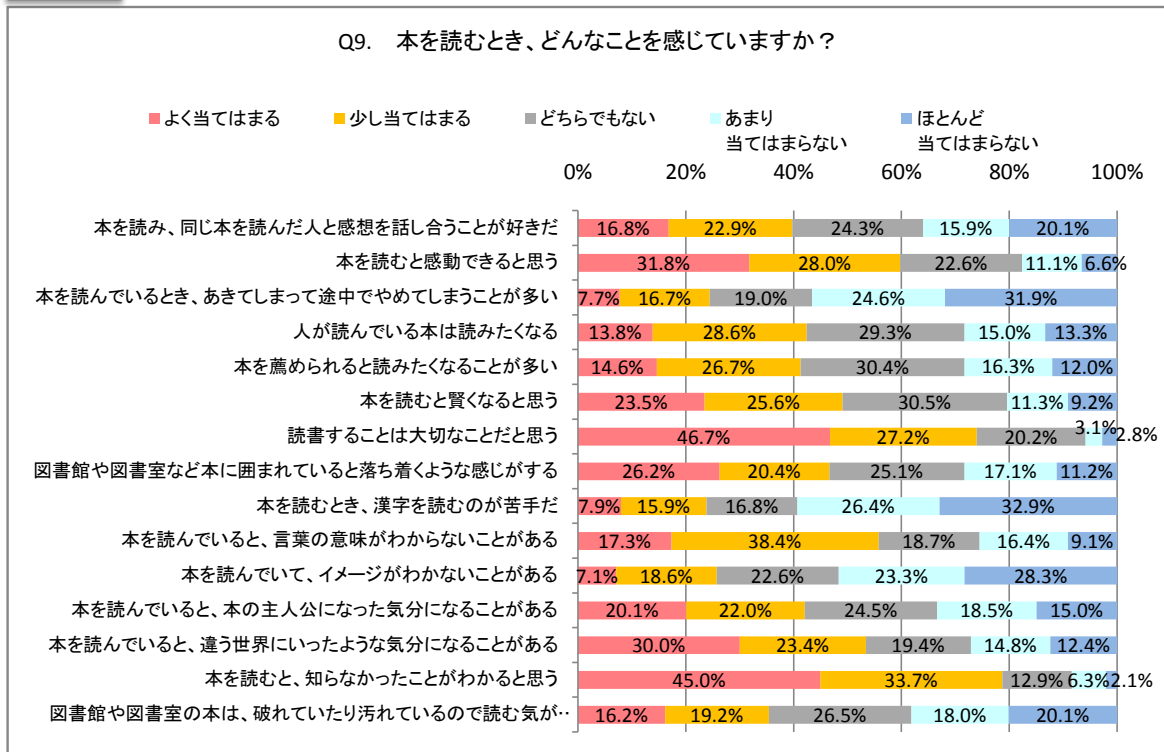


Q9. あなたが本を読むとき、どんなことを感じていますか？

小学生

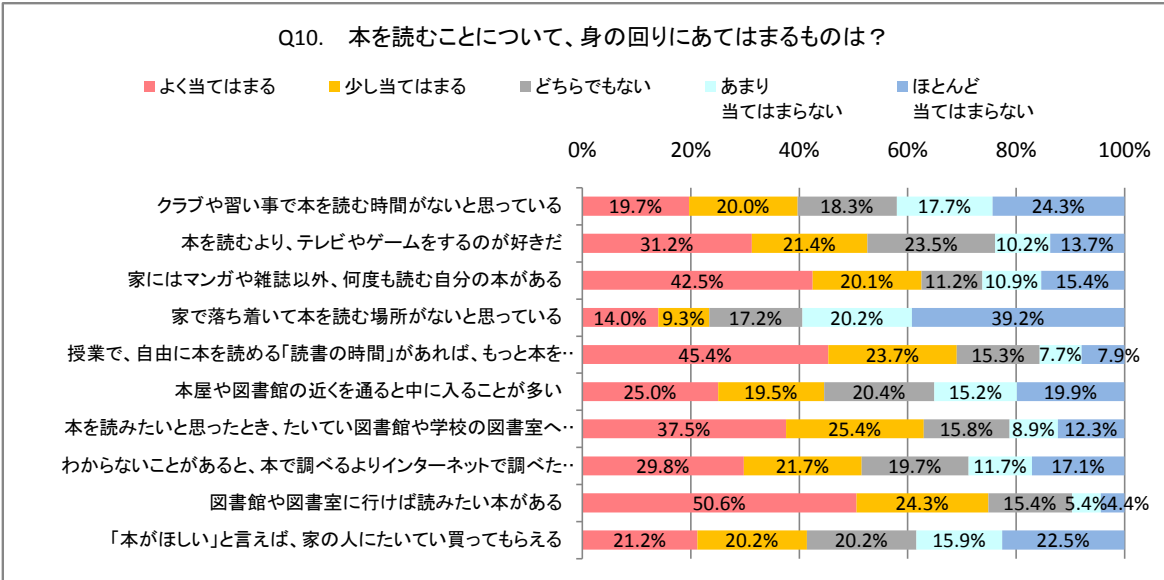


中学生

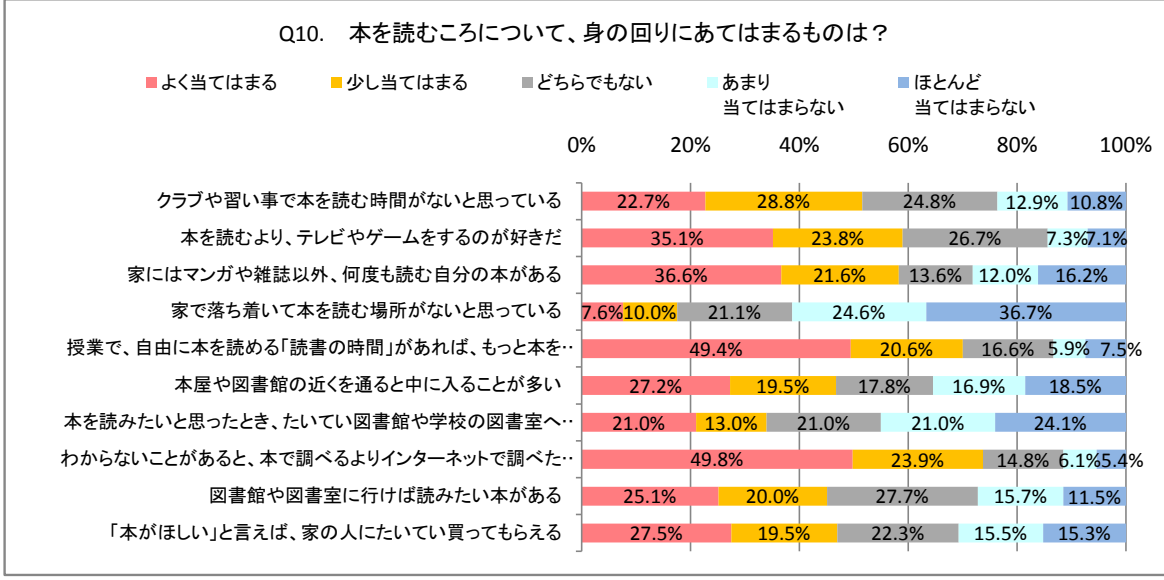


Q10. 本を読むことについて、あなたの身の回りにあてはまると思うものは？

小学生

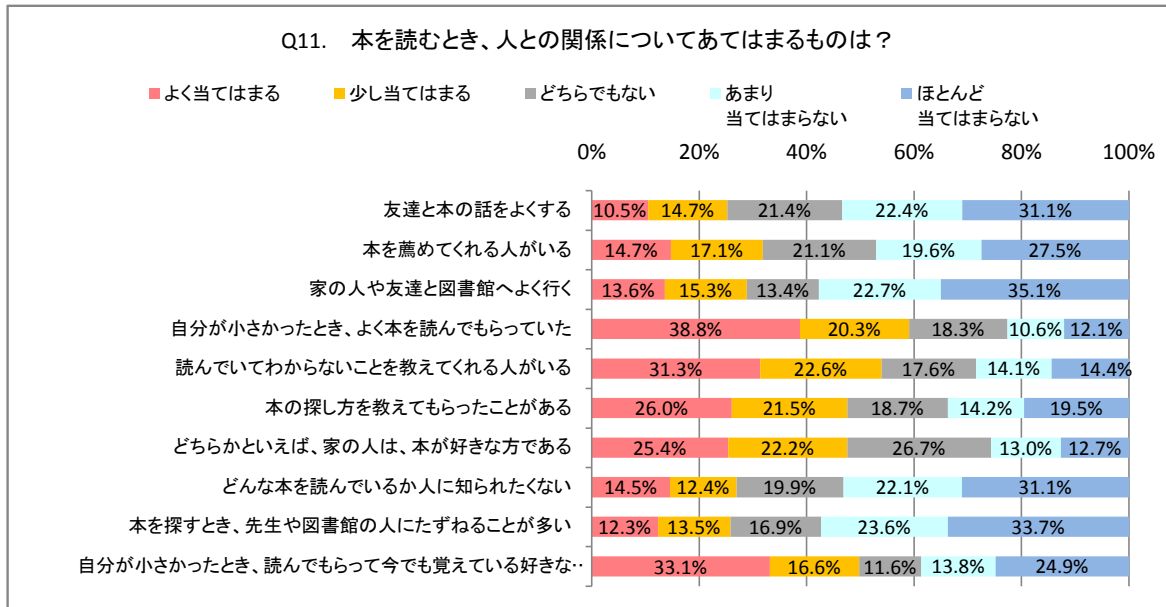


中学生

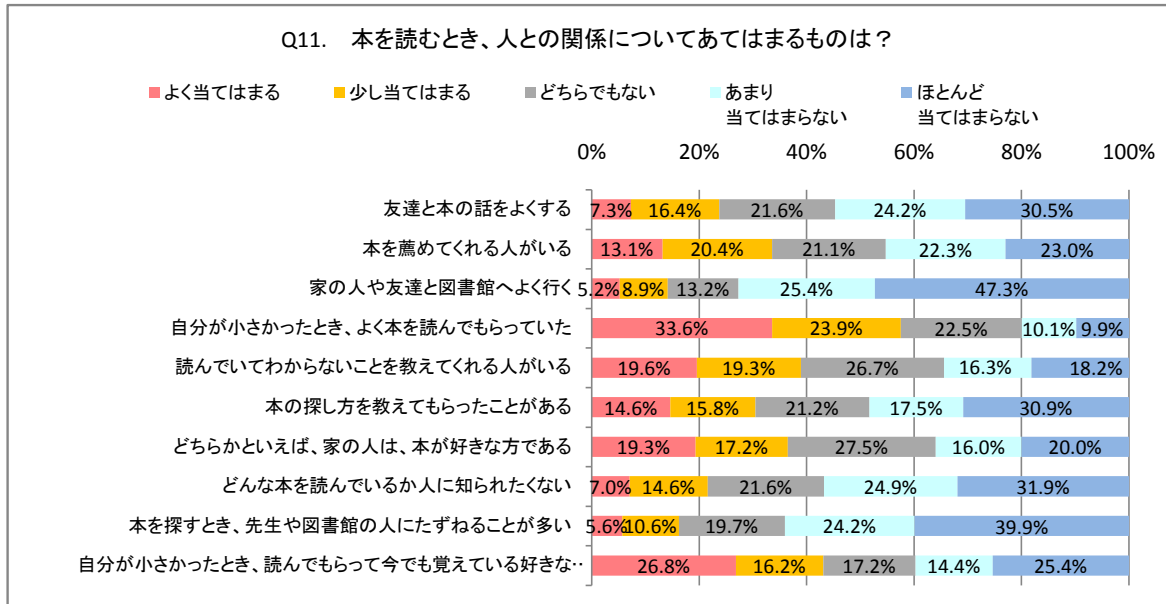


Q11. 本を読むとき、人との関係について、あてはまると思うものは？

小学生

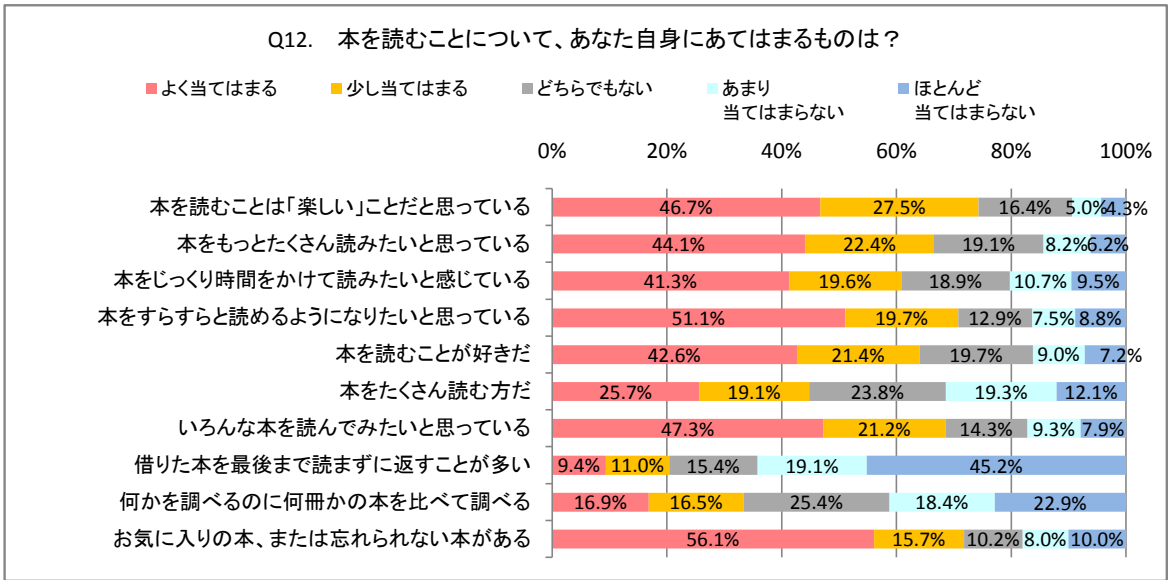


中学生

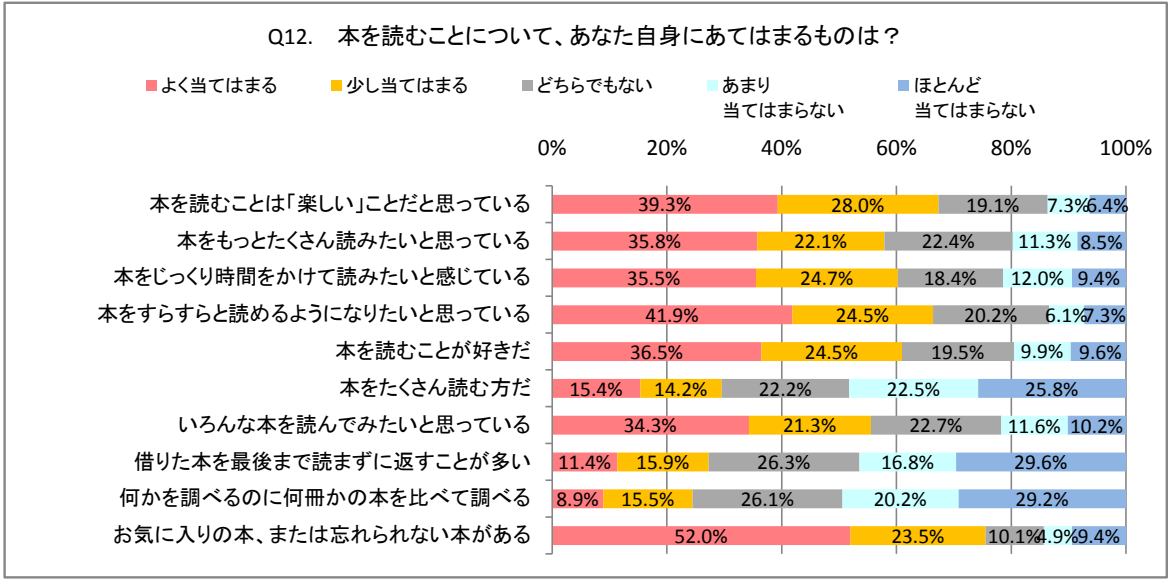


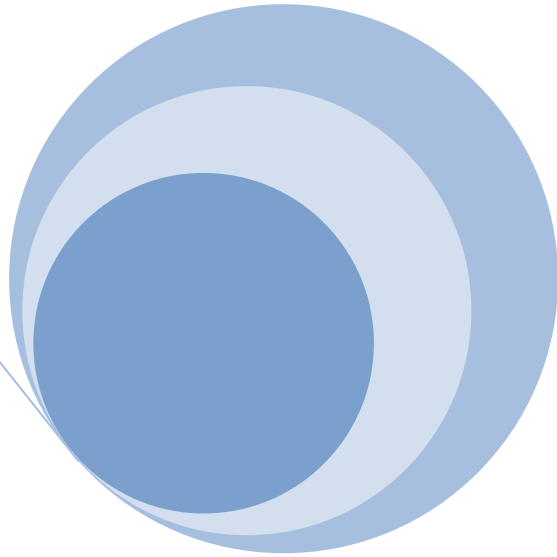
Q12. 本を読むことについて、あなた自身にあてはまると思うものは？

小学生



中学生





芳賀町子ども読書活動推進計画

